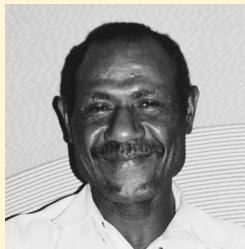


研修員に聞く

お国自慢あれこれ



ワランドウ・ジョン・アウェレスさん
(パプア・ニュー・ギニア)

Mr. Walando John Awalesu

パプア・ニュー・ギニア(PNG)農業省、サンダウン管理地区農畜産課、農村開発オフィサー。JICA札幌の「農民参加による農業農村開発Ⅱ」コース(2004年6月22~8月1日)で研修。



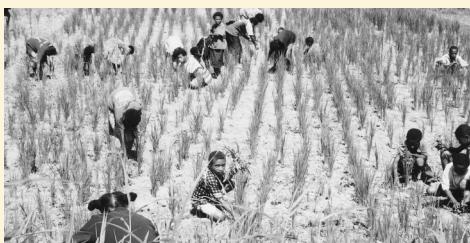
■「生来の農民です」

「パプア・ニュー・ギニア人は生まれながらに農民である。そのため、集中的な農法の導入が容易だった」とジョンさんはレポートの最終行に書いている。PNG政府の農村開発システムの一端を聞いた。国内各地区毎のモデル農民(Model farmers)に米作りを指導する。彼らは自分の村の中心的な農民(Contact farmers)に自分の習得した技術を伝える。次にその家族などに伝えて一つの村に技術を行き渡らせる。小中学校にも同様のシステムがある。農業の先生(Teachers in Charge)がいて、他の一般の先生たち(Class Teachers)を指導し、彼らは学校農園での児童への実習を通じて将来の農業の担い手を育てている。

自給自足を超える段階までは進んでいない、流通システムも無いが、生産者が精米して個人単位で販売できるので現金収入につながり喜ばれている。なお、米はタイやフィリピン産の種で、副食として食べる。

■JICA専門家の薦めで米作を導入

サンダウン州は、ニューギニア島の中央、インドネシアのイリアン・ジャヤと国境を接する地域の北部にある。土地は概してやせているが、国の中心を走る4000㍍級の山岳地帯から流れ出す河川は豊かな水をもたらす。ジョンさんが指導しているのは同州ヌク地区で、数年前にJICA専門家の助言もあって、陸稻の栽培を



ヌクNuku小学校の学校農園の陸稻畑で草取りをする児童たち。
手前の人達は先生

始めた。最初の年は、5㌶四方ほどの土地あたりに手のひら一杯程度の粉を撒いて約1kg、合計4kgしか収穫

ができなかったのが、植えつけが広がった今では2002年17㌧、2003年には85㌧収穫できた。「新しい農法の採用によって農民たちは食糧が確保され、現金収入が得られるようになりました」と、国の発展に寄与できたことを嬉しそうに話していた。2004年は130㌧の収量目標を掲げてきて、実際にどのくらいの収穫があつたかを楽しみに帰国する。私は雨季の初め(12月上旬)に直播きし3カ月ほどで収穫できる。

■真面目な人柄

研修終了直前、知人が富良野地方のラベンダーを見に連れてってくれた。「広々して、きれいでいた。あまり旅行をする機会はなかつたのですが北海道は景色が美しいです」。

インタビューの時、拡大した地図や写真、資料を両手にかかえてくれ、「ウーン、あれはいつだったかなあー」「これは英語で何と言ったかなあー」と一生懸命に考えながら答えてくれるなど真面目で熱心な人柄が感じられた。帰り際、インタビュアーの帰路を心配してくれた。「バスで来てセンターの前で降りた」というと、「じゃ、そこまで送ろう」と言ってくれたのを丁重に辞した。いつもながらJICAの男性研修員の女性に対するマナーには感動する。

1975年国連信託統治から独立し、首都はポート・モレスビー。

通貨はKina(キナ)で1Kina=0.30米ドル(2003年12月現在)。

[編集部・小紙
既刊Vol.22でもPNGの研修員の話を掲載
しているので
参照を]



Contact farmerのピーターさん(真中)とイグナシウスさん(左)にイネの植え方を指導するModel farmerのフランシスさん(右端)。ジョンさんの指導区であるサンダウン州ヌク地区の村、セイム(Seim)で

【刊行物案内】



知りたかったNGOの情報を満載!こんな本待っていた!! 『国際協力NGOダイレクトリー2004』 ～国際協力に携わる日本の市民組織要覧～

Directory of Japanese NGOs Concerned with International Cooperation

JANICが2年おきに改訂・発行しているもので、国内のNGOの概要と最新のデータを収録している。NGOについて知りたい、NGOの活動に参加したい、NGOで働きたい、という時にも役立つ一冊である。

2004年版には、国際協力や開発について学んだり、スキルを磨くコースを持つ大学・大学院ほかの情報を参考資料として掲載している。

【個人購入希望者は】次の郵便振替口座に定価3,000円(会員2,400円)と送料(300円)を送る。通信欄に「国際協力NGOダイレクトリー2004購入希望」と記入する。なお、詳細はJANICまで。

口座番号:004180-1-667032

加入者名:(特活)国際協力NGOセンター

問い合わせ先

特別非営利活動法人 国際協力NGOセンター(JANIC)
〒101-0054 東京都千代田区神田錦町2-9-1 齋藤ビル5F.
URL <http://www.janic.org/pr/dir.html>
TEL 03-3294-5370 FAX 03-3294-5398